

いのちと人権が守られる平和・公正な未来へ

民医連創立70周年記念式典が開かれました



(岐阜健康友の会事務局局長 熊崎 辰広)

全日本民主医療機関連合会(民医連)は1953年の6月7日に結成、今年で70周年を迎えることから記念式典とレセプションが8月19日に開かれました。会場は東京ドームホテルで、地下1階の会場には38のテーブルに約330名が招待されました。

主催者挨拶の、増田剛会長は、医療を無差別に取り組んできたからこそ、すべての個人の尊厳とジェンダー平等に取り組みたいと振り返り、岸田政権が戦争づくりを進める今、「人権と平和を守るためのせめぎ合い」として、命と人権を守られる未来を目指してつながり、行動することを呼びかけました。

日本ヘルスプロモーション学会CEOの島内憲夫、全国自治体病院協議会名誉会長の邊見公雄、佐久総合病院統括委員長の渡辺仁の各氏、韓国社会的医療機関連合会のキム・ボング共同代表、伊藤塾の塾長の伊藤真弁護士、また日本共産党の志位委員長のあいさつもありました。その後、この70周年記念の応募企画の選考結果の発表と授与式があり、みどり病院の中尾事務局長が、写真部門で佳作に選ばれています。

記念講演は、今年92歳の看護師の川嶋みどり氏でした。民医連の「生活と労働に目を向けつつ広く社会と政治に働きかける」初心から70年、住民とともに「働く者の医療機関」として、無差別・平等の医療と福祉の実現に向かって歩まれた歴史に、自らの看護師歴72年を重ねての報告でした。

文化行事としては、ウクライナの歌姫ナターシャ・グジーンさんの登場。民族楽器バンドウーラの演奏にあわせての澄み切った歌声は、会場を魅了しました。6歳の時チェルノービリで被ばく、避難生活の後、キウウの音楽学校で専門課程を学びました。その歌声をウクライナの荒廃した風景に重ねるとき、その悲しみの深さと希望を感じました。

全体として、民医連の70年の歴史の厚みと、韓国・キューバ・フランス等の国際的な広がりがある活動を実感できる内容でした。

待望の「新みどり病院」が、2024年5月に開院します

岐阜健康友の会 会長 大塚 研二

子どもから高齢者まで「地域にひらかれたみんなにやさしい病院」——新みどり病院が来年3月に竣工し、5月に開院を迎えます。

健康で安心して住み続けられるまちづくりを支えます

みどり病院は「いつでも診てもらえる病院を」という声に応え、診療所として開所して以来、新築移転、増築を進め、治療と入院体制を充実させてきました。来年開院する新病院は、利用者の一層の便宜をはかり、私たちの期待に応える病院をめざし、健康で安心して住み続けられるまちづくりを支えていきます。

新病院の主な特徴は

- ①個室ベッドを増床しますが(7床から33床に)、差額ベッド料は徴収しません
- ②MRI装置とDEXA(DEXA)を導入します
- ③最新・最新の透析医療を提供し、積極的な在宅医療に努めます

新MRI装置は短い検査時間で画像がより鮮明になり、アルツハイマー型認知症の診断、腹部(肝臓・膵臓・胆嚢)の結石や腫瘍の有無の検査・診断を可能にし、他の病院での検査を受ける必要がなくなります。DEXAはより正確で誤差が少なく、骨粗しょう症の診断から治療効果の経過観察まで可能になります。

③最新・最新の透析医療を提供し、積極的な在宅医療に努めます

すこやか透析センターを新みどり病院内に統合し、透析患者さんに最

善・最新の透析医療を提供します。訪問診療、訪問看護を積極的に、地域で安心して住み続けられるように支援をします。

④新病院は地球環境に配慮した建物になります。

断熱性能の窓や壁、電力消費の少ないLED照明などの省エネ機器、再生可能エネルギーである太陽光発電(屋上に設置)などの導入により、環境省が推奨するZEB(ゼブ)の認証を受けています。

強化月間の取り組みを続け、会員基金を増やし、新病院の開院を迎えましょう

来年春の新病院開院を視野に入れた秋の共同組織拡大強化月間では、「楽しくつながり、ともに輪をひろげよう」と活動の輪が広がる月間をめざして様々な取り組みを行っています。支部ごとの地域に見える活動(歯科班会、健康班会、サークル活動、子ども食堂、無料カレーの日など)に加え、本部が企画する活動も(岐阜民医連共同組織活動交流集会、健康チャレンジ、健康まつり)声かけの広がりが増えていきます。11月には、モルック大会を計画しています。地域で好評のモルックは新しい仲間を誘うよい機会です。

10月までの強化月間の取り組みを活かし、11、12月も活動の輪をひろげ、友の会会員を増やし、2023年度の基金の目標達成に近づきましょう。全国の仲間の様子と活動がわかり、名前の通り元気の出る「いつでも元気」の購読も呼びかけましょう。

岐阜健康友の会
公式LINEをやっています!

QRコード

登録方法

- ① LINEを開く
- ② ホームを押す
- ③ 友だち追加を押す
- ④ QRコードを押す
- ⑤ 左のQRコードをかざし「追加」を押す
- ⑥ 登録完了!

健康 春秋

「米軍機ファントムが横浜の民家の上に落ち、九人が死傷した。米軍から連絡を受けずに飛んできた自衛隊救援へは、血まみれの被害者を放置し、パラシュートで降下した無傷の米兵だけを乗せて飛び立っていった。被害に遭った二人の男の子は全身に大きなやけどを負い、病院で「痛いよ、痛いよ」と苦しんだ末、三歳のゆう君は「パパ、ママ、バイバイ」と言いながら、一歳のやす君は「ぼっぼっ」と鳩ぽっぽの歌を口ずさみながら亡くなっていった。母和枝さんも、四年四ヶ月の闘病の末、亡くなる」。この文章は「世界のなかの日米地位協定」という本の中の文章です。一九七七年に起きた事故ですが、今も同じような事故が起きる可能性があります▼今身近に1歳と2か月の孫がいて、身につまされるものがありました。救援ヘリなのに、なぜ苦しんでいる住民を助けず、無傷の米兵を乗せたのか。米兵も自衛隊も助けようとしなかったのか。そういう理性が働かなかったのか▼ここに「日米地位協定」の不条理の本質が現れています。国民のためにあるのではないという事です▼今社会的に大きな問題のPFAS汚染の最も大きな汚染源は沖縄にある米軍基地ですが、その調査を日本はできません。「日米地位協定」の壁があるからです。各務原市の自衛隊基地近くの浄水場からも汚染が確認されています▼事態の解明と素早い対策が求められます。同時に「日米地位協定」の不条理を問いただし、改革する運動を持続させることが求められます。(K)